

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

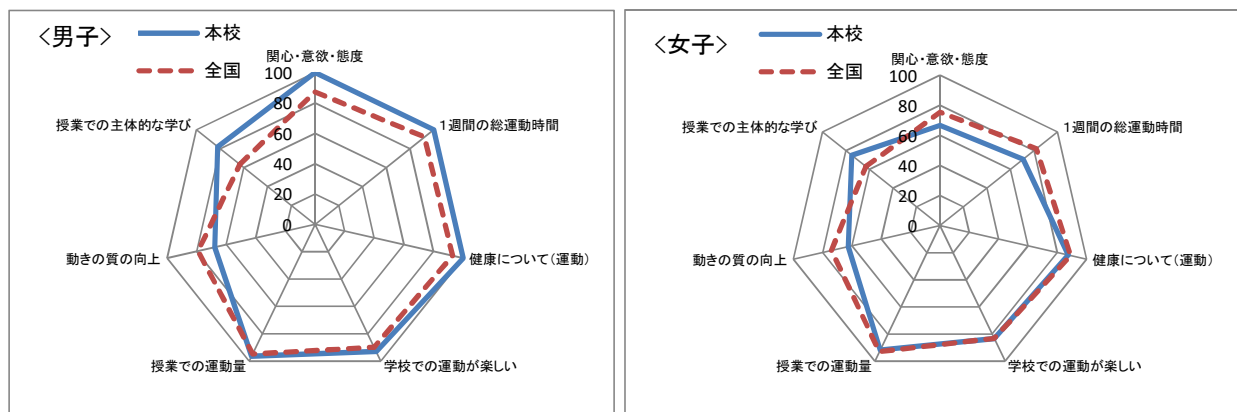
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

「運動が好き」の項目と「運動が大切」の項目に肯定的に回答した生徒が多い。このことから、運動が健康に良く、生活に欠かせないと感じている生徒は多く、日々の生活の中で運動への意識は高い。また、「体力向上において自分の目標を立てているか」肯定的回答した生徒も多く、運動が苦手な生徒も目標を立てて保健体育の授業を通して取り組もうとしていることがいえる。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

少人数グループによる活動にすることで意欲的に取り組む生徒が多くなり、体力UP運動の定着は効果的にできた。今後は、生徒が意欲的に運動(スポーツ)に取り組むために、授業の終わりに「振り返り」をさらに徹底することにより、「もっとできるためにはどうすればよいか」などを考えることで、達成感や向上心を

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

運動習慣への補助活動として、昼休みにボールの貸し出しをする。短時間ではあるが、外へ出て体を動かす生徒は多い。入学前から「体を動かすことが好き」または「苦手」と回答している生徒がはっきり分かれており、課題としては、小中で運動習慣等に関する取組の連携が必要であり、9年間見据えた取組が必要である。